

兵庫県立がんセンターと地域の医療関係者をつなぐ



都道府県がん診療連携拠点病院

兵庫県立がんセンター

かけはし



vol.

85

2023 06

題字：病院長 富永 正寛



画像提供：(一社) 明石観光協会

特集

消化器外科診療の内容と最新トピックス

消化器がん内科関連の最新情報

- 新任医師の紹介
- がんセンのチームだより-術後疼痛管理チーム-
- 第3回 地域公開講座 in 播磨
- がんセンター美容外来





特集2

消化器がん内科関連の最新情報

消化器内科

消化器内科は、消化器領域の悪性腫瘍(食道がん、胃がん、大腸がん、小腸がん、肝がん、胆道がん、膵臓がん、消化器の神経内分泌腫瘍、GIST等)に対する、診断、内科的治療(薬物療法、内視鏡治療、経皮治療、緩和治療)を担当しています。またそれらの疾患病態は多岐にわたるため、科内でのカンファレンスに加え、関連診療科(消化器外科、放射線診断科、放射線治療科等)と毎週がん診療チームミーティングを行い、すべての患者さんに常に最良の診療を提供できる体制を整えています。

昨年度の実績は、入院患者数:11,646人、外来患者数:20,910人、消化器内視鏡検査数:6,115件、内視鏡治療数:511件、外来化学療法数:3,981件と、当院で最も多くの患者さんの診療に関わっており、それらを10人のスタッフでがんばっています。さらに各スタッフはサブスペシャルティーを持っており、それぞれの専門分野で日々臨床や研究にも精力的に取り組んでいます。

■ 多くの消化器がんの1次治療が変わりました

これまでがんに対する内服や点滴による治療は、抗がん剤治療という呼び方をしていましたが、今は薬物療法と呼ぶようになっており、その中に①化学療法(殺細胞性抗がん薬:従来の抗がん剤治療)②分子標的療法(分子標的薬)③内分泌療法(内分泌療法薬:ホルモン療法薬)そして、④免疫療法(免疫チェックポイント阻害薬を含む)が含まれます。

消化器がん免疫チェックポイント阻害薬が導入されたのは、2017年10月に胃がん3次治療に対するニボルマブ(オプジーボ)が最初でしたが、2020年後半からは、様々ながんの1次治療に次々に導入され新たな時代の転換期に入っています(図1)。さらに新しい治療薬も控えており(胃がんに対するゾルベツキシマブや胆道がんに対するキートルーダなど)、今後も非常に注目され、期待されている分野です。免疫チェックポイント阻害薬は、従来の抗がん剤とは異なり、副作用が軽微な優れた治療ですが、一旦副作用が出現すると治療に難渋することも少なくありません。当科では新薬治験の段階より関わっていますので、多くの症例を通して様々な経験、ノウハウを蓄積しており、より安全で確実な治療を受けていただける環境が整っております。

消化器がんの1次治療の変遷 (免疫チェックポイント阻害薬)



図1

放射線療法後再発食道がんに対する光線力学的療法の新機器を導入しました

放射線療法後の遺残再発食道がんに対しては、粘膜内病変であれば粘膜下層剥離術(ESD)が適応となりますが、癒痕が強くESDが困難と予想される病変や、粘膜下層や筋層に浸潤する病変に対しては光線力学的療法(PDT)が適応となります。兵庫県では唯一当院のみPDTを採用しているため、県内や県外から患者さんをご紹介いただいています。2013年から2021年にかけて、42名の患者さんにPDTを行い、寛解率は85%を超えています。また当院の検討で、80歳以上の高齢者に対してもPDTは安全に施行でき、有効性に差がないことを報告しました¹⁾。

2022年、このPDTに使用する半導体レーザー装置を新機器に更新しました。ガイド光を用いて照射の位置決めを行うため、より正確な照射が可能で(図2)、原発巣の制御が生存期間の延長につながりますので、患者さんがいらっしゃれば是非ご紹介下さい。

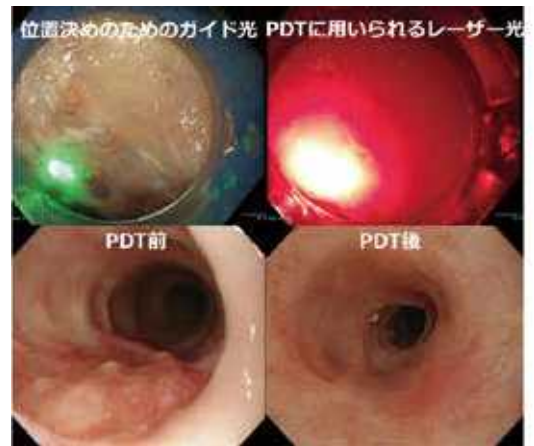


図2

1) Nishikawa M, et al. DEN Open, 2023; 3: e167

神経内分泌腫瘍にたいしルタテラ治療を行っています

神経内分泌腫瘍(NEN)は稀な疾患であり、2010年の本邦の有病患者数は臍が10万人に当たり2.69人、消化管が6.42人と報告され²⁾、今後も増加していくと考えられています。NENは高分化型神経内分泌腫瘍(NET)と低分化神経内分泌腫瘍(NEC)に分類され、切除不能のNETに対しては主に薬物療法が行われますが、2021年9月から1次治療後のNETの患者さんに対するペプチド受容体放射性核種療法(PRRT)療法(ルタテラ療法)が本邦で施行可能になりました。当院でも2022年6月から消化器内科が主体となり、放射線診断科、放射線治療科をはじめ他部署の協力のもと開始しております(8週間隔で4回の治療)。比較的副作用も少なく、従来の治療に比べ高い有効性が期待出来る治療です³⁾(図3)。治療対象の患者さんがおられましたら、是非ご紹介下さい。

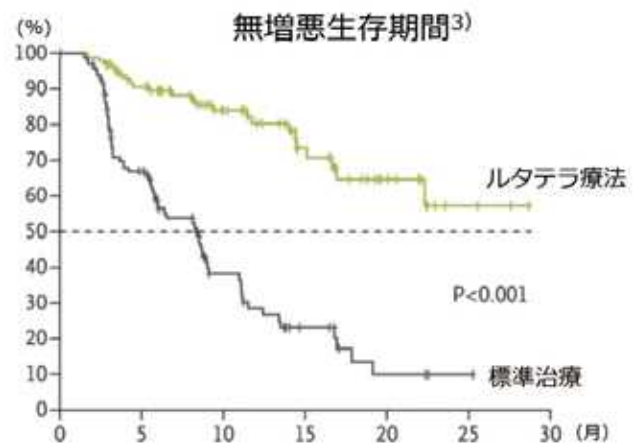


図3

2) Ito t et al. J Gastroenterol. 2015;50(1):58-64

3) J.Strosberg et al.N Engl J Med 2017;376:125-35

PICK UP
08

がんセンのチームだより

術後疼痛管理チーム



【術後疼痛管理チームの役割】

手術後の傷の痛みは24時間をピークに徐々に少なくなっていきます。手術後の身体の回復のためには手術後早い時期に歩行や日常生活を行っていく必要がありますが、傷の痛みによって身体を動かすことが困難になったり、睡眠が十分にとれなかったりして回復が遅れていく場合があります。体の不調が続くと合併症といって様々な別の症状があらわれ、慢性的な不調へとつながっていきます。

術後疼痛管理チームは手術後の痛みのコントロールを適切に行い、合併症を予防することで患者さんの身体の早期回復に向け支援する活動をしています。

【構成メンバー】

麻酔科医師、薬剤師、手術看護認定看護師、集中ケア認定看護師、臨床工学技士

【活動内容】

- 術後3日目までの患者さんを中心に傷の痛みについて評価
- 痛みのコントロールが不十分な患者さんへチーム回診
- 適切な鎮痛が実施されるよう主治医に提案、調整
- 手術による傷の痛みのほか、吐き気、神経障害についての相談に対応



第3回 地域公開講座 in 播磨

INFORMATION

会場 加古川市総合福祉会館 2F大ホール 開催日時 令和5年7月29日(土) 14時～16時 参加費用 無料

申込・問合せ先 兵庫県立がんセンター総務課
TEL:078-929-1151 FAX:078-929-2380 E-メール:jimukyoku@hyogo-ganshinryo.jp

内容(テーマ):「がんセンターにおける最新の外科治療 2023」

プログラム

- 講演1 「知ってほしい肺がん手術」～肺がんの低侵襲手術・手術可能な進行肺がんの治療戦略～
- 講演2 「脳腫瘍を知る」～がんセンターだからできる悪性脳腫瘍に対するハイブリット治療～
- 講演3 「婦人科がん治療の最前線」～低侵襲手術を中心に～

がんセンター美容外来

TOPIC

がん治療や加齢による皮膚の変化をあきらめていませんか?形成外科にて、塗り薬やレーザーによる美容治療を行なっています。ご予約は、形成外科外来・主治医・看護師相談支援センターにて受け付けております。ご相談だけでも大歓迎ですので、お気軽にどうぞ。

診察時間 月曜日 9:30-12:00
(要予約) 水曜日 14:00-16:00

治療内容 外用薬(トレチノイン/ハイドロキノン)
Qスイッチ付きルビーレーザー



都道府県がん診療連携拠点病院

兵庫県立がんセンター

〒673-8558 兵庫県明石市北王子町 13-70
TEL:078-929-1151 FAX:078-929-2380

ホームページ <https://hyogo-cc.jp/> 兵庫県がん 検索

